

地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな「実践型教育プログラム」の開発：平成22年度報告書

著者	土岐 篤史, 上原 美穂, 川口 智美
ファイル(説明)	[奥付] 資料集 おわりに 第4章 第3章 第2章 第1章 はじめに 巻頭言 目次 [表紙・標題紙]
URL	http://hdl.handle.net/10232/17377

はじめに

プロジェクト統括 臨床心理学研究科長 安部 恒久

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科では、新しい取り組みとして平成22年度から3年間の予定で、相談者が来談するのを待つ従来の来談中心のアプローチではなく、教員が様々な地域に出かけていくデリバリー方式と呼ぶ地域支援のためのアプローチを開始した。

この取組の目的は、デリバリー方式に基づき地域の支援やコンサルテーションを実施し、実践的臨床技能を大学院生に修得させる「実践型教育プログラム」を開発することである。これまでの臨床心理士の養成では、来談方式による教育が主として行われており、集団、地域、危機介入支援ができる人材の養成は未開拓となっているからである。

したがって、本研究科では、デリバリー方式による「実践型教育プログラム」を開発し、臨床心理士養成の教育課程（カリキュラム）のなかに位置づけることを目標としている。また、開発された「実践型教育プログラム」は、全国164校の臨床心理士養成大学院に提供され、これまでの来談中心の臨床心理士養成方式に対して、新しい養成方式として提言を行う予定である。

平成22年度の取組としては、鹿児島県下の伊佐市、奄美大島、霧島市、種子島、枕崎市などの地域で、心の健康増進相談を担っている現場の専門家への支援として講演会を実施した。また、地域専門家と意見交換会を開催し、地域の潜在的ニーズを把握し、地域の行政等と連携を取り、具体的支援の対応策の検討を行った。

さらに、臨床心理学関連の学会等において地域支援の研究情報収集を行い、地域支援のあり方を学ぶために先進的な取り組みを行っている追手門学院大学、神戸女学院大学、スウェーデンのBUPに視察に出かけ、多くの示唆を得ることができた。

本取組は、平成23年度、24年度と引き続き実施されることになっており、地域支援のための課題も明確になってくると思われる。今後とも、地域支援に関わっておられる人々のご協力とお力添えをいただきながら、高度な専門職養成のための「実践型教育プログラム」を開発することができればと願う次第である。